

第三者評価シート

今年度は、教育課程に関わる項目を中心に評価を実施しました。また、今年度は教職員の項目内容を改訂したため、保護者と教職員の集計結果を比較しておりません。また、昨年度のご意見より、学部ごとの集計もいたしました。第三者として、別添の保護者並びに教職員による評価集計結果をご覧いただき、率直なご意見、ご感想等を含めた評価をお願いいたします。

1 教職員評価、保護者評価の全体傾向に関して

<記述>

今年度もコロナ禍という保護者・教職員の皆様にとっては大変な 1 年間だったと思います。そのような状況下での学校評価でしたが、全体としては高い評価だと言えます。日々の教職員の努力やきめ細やかな配慮がうかがえます。また、保護者からの信頼の厚さも感じられます。今回の評価結果をもとに、とりわけ相対的に評価が低かった項目について教職員で十分に検討し改善を図ってください。

今回は、コロナ禍の影響による評価を除いて相対的に低かった「各教員、学部間の引継ぎの課題」「学校に行けなくなっている児童生徒への対応」については、教職員の多忙化や児童生徒の実態に即した教職員体制に大きな要因があると理解していますが、引き続き改善を図るようお願いいたします。

2 各視点・個々の設問に関して

<記述>

各視点、個々の設問に関しては、学校経営方針に対する評価項目としては妥当だと思います。一方で、相対的に評価が低かった項目に注目すると、例えば、教職員では、No7「各教科等の教育目標や内容の相互関連や系統性」、No15「やむを得ず欠席となる児童生徒への対応」、No25「専門性を高める主体的研修」について、保護者では No9「1 人 1 人の指導目標などの引継ぎ」については次年度以降、意識的に取り組む必要があると思います。また、コロナ禍で十分に展開できなかった地域との連携や ICT の効果的利用については「こうすればできる」という視点で取り組んでいただければより充実した教育が展開できると思います。

3 学校評価全体及び各設問、集計方法の妥当性に関して、その他

<記述>

今回は、学部ごとに集計を行ったことで、学部間での評価の違いが見えてきました。全体としては、小学部・中学部に比べ高等部の教職員評価が低い項目が散見されました。評価が低かった項目については、それぞれの学部で十分に検討する必要があります。ただ、高等部は卒業に向け、就職や自立といった大きな課題を担っていることから、高等部の教職員自らが厳しい視点が評価の低さにつながっているものと考えられます。しかし、高等部に課せられている教育目標や課題は、高等部だけの問題ではなく、小・中・高の 12 年間を通して児童生徒に身につけたい力であり、教育目標・課題です。したがって、それぞれの教育課程・教育内容の関連性や系統性、そのための引継ぎをどう展開していくのが重要だと思います。この点は、今回の評価でも相対的に低かった項目でもありますので、次年度に向け取り組んでいただければと思います。